

# ラオスのこども通信

発行：特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603

36号  
2006年4月発行

## 特集 第1回 子どもブックフェスティバル開催 ……2

4月はラオスのお正月／サバイディー・ピーマイ 06 のご案内 ……4

JICAフェーズIIの動き「地域へ、地方へ、有償へ」 ……6

国内活動 ……8

会員制度 ……9

ヴィエンチャン事務所／東京事務所から、NGO ネットワーク ……10

スタディツアーレポート ……11

活動に参加し支えてくださったみなさん ……12



ສະນະລັດ  
ສັງລັນຊີບໃຫ້ເວັນກົງວອນວາວ  
2006 ປີ

子どもブックフェスティバル CEC 屋外ステージで



## 第1回 子どもブック フェスティバルを開催 しました

ヴィエンチャン都教育局の敷地内にある子ども教育開発センター(CEC)の開所1周年を記念して、2月3日～4日に、ラオス初の「子どもブックフェスティバル」を開催しました。

読み聞かせ・語りのコンテスト、絵のミニコンテスト、作家によるパネルディスカッション、読書コーナー、本の販売コーナー等々、企画盛りだくさんで、1000人を超す来場者があり、とても盛大なイベントとなりました。

特定非営利活動法人 ラオスのこどもは、子ども自らが学ぶ力を伸ばしていくために、ラオスで、「絵本、紙芝居などの出版」「図書室」「集い楽しみ学べる場」などの支援を行っています。

# 第1回 子どもブックフェスティバルを開催しました

2月3日～4日、子ども教育開発センター(CEC)の1周年を記念して、ラオス初の「子どもブックフェスティバル」が2日間にわたり盛大に開催されました。



読み聞かせ、語りのコンテスト、作家によるパネルディスカッションなどのほか、移動図書館車での読書コーナー、自由に絵を描いて遊ぶコーナー、絵のミニコンテストなども行われました。盛りだくさんの企画で、どのコーナーも子どもたち、保護者、先生で溢れかえり、2日間で1,000人を越える来場者がありました。

CECでは图画工作、踊り、音楽など様々な活動が行われていますが、改めて、本への興味、関心を喚起しようということに「子どもブックフェスティバル」の趣旨がありました。それぞれの企画を通して、子ども、先生、保護者のだれもが、楽しく本の魅力に触れることができる催しとなりました。

本の販売コーナーでは、当会およびラオスの教育省の印刷局、ラオスの文芸誌「ワナシン」、地元の子どもの本の出版社、英語教材の出版社、フランス人による子どもの本を出版している団体など7団体が出品。私たちが想像していた以上に、よい売れ行きでした。現在、当会では本の販売を始めています。このフェスティバルで確かな手応えを感じることができました。

作家によるパネルディスカッションでは、「どうしたら作家になれますか?」との高校生の問いに、作家の一人は「たくさんの本を読み、たくさんの文章を書き、人に読んでもらうことです」と答えていました。新しい作家の誕生が楽しみです。

ラオス人作家10名、画家6名が参加した、子どもの本に関するパネルディスカッション

最も盛り上がったのはストーリーテリング（語り）のコンテストでした。

小学生の部、中高生の部、先生の部と3部門で合計51名が参加。予選は教室で実施し、ひとり2話を発表。ベテランの図書館スタッフたちによって厳正な審査が行われ、各部門で4～6名が決勝戦に進みました。決勝はステージでたくさんの観客を前に行われました。緊張で台詞が出てこないという出場者はだれ一人としてなく、堂々とした語りで観客を魅了しました。いずれも図書館に通う常連だったり、学校図書室の担当の先生だったり。種をまいてきた植物がたくさんの花を咲かせたように感じました。次にもまたきれいな花が咲くように、手入れをしっかりしなければと思いを新たにしました。

「子どもブックフェスティバル」の運営は、CECや当会をはじめ国立図書館、SVA、PADET、CWSなど子どもの活動に関わる団体が協力して行いました。企画の段階から当日まで、様々な団体や個人に協力を呼びかけ、50の団体と個人から、寄付金、図書、ノート、カレンダー、画材などが寄せられました。それだけ社会の関心が高かったこといえるかと思います。

初めての開催ということで、運営スタッフは何回も会議を行い、文字通り手探りで準備を進め、成功させることができました。

（赤井朱子）



ストーリーテリング・コンテストの予選  
(上・左)と決勝戦(下)



(上) 様々な団体で出版しているラオス語の本の展示

(右)  
『孤児と小さなお化け』『長ぐつをはいた猫』などの原画展



# ラオスの子どもたちと本と CEC ダラーさんに聞きました

「ラオスのこども」ラオス事務所の現在のアドバイザーであり、「ラオスのこども」の草創期から様々な協力関係にあったダラーさんに、「ラオスの子どもたちと本」についてインタビューしました。

——ラオスは発展がめざましいように思えます。

ダラー：ヴィエンチャンは、外国の首都に比べたら実にささやかな首都ですが、10年ほど前、タイとの間に橋が開通し、大きく変わりました。町の光は夜遅くまで明るく灯り、ディスコは大きな音で音楽を鳴らしています。外国人向けの飲食店や、いかがわしい店も増えました。若者たちはオートバイを乗り回し、食堂では遅くまで中学生くらいの女の子たちが眠そうにしながら、親の仕事を手伝っています。

町は刺激的なものばかりが増え、子どもたちが判断力をつけるための環境や教育が整ってきたかといえば、まったく遅れたままです。大人たちも、目の前のきらびやかな様子に目が奪われているだけです。決して望ましい状態ではありません。

——クラブ活動などがないラオスの子どもたちにとって、CEC（子ども教育開発センター）のように放課後の課外活動ができる施設は重要だと思います。

ダラー：そうですね。子どもたちが活動できる施設は、他にほとんどありませんから。CECの活動の中でも、私はとくに子どもたちが本に接することできる場であることを大切に思っています。

本は、子どもが自分で考える力を育ててくれます。また、CECにあっても、本にかけいの深い職員が育つことがとても重要だと考えます。CECはややもすると、子どもや親の人気取りのようなプログラムに走りたくなる誘惑にかられます。そうではなく、本を好きな子どもを育ててこそ、今のラオスに必要なCECとなれるのだと思います。

(聞き手：森 透)

ダラーさんは、ラオス情報文化省で「文芸」という雑誌の編集長を務めたほか、寺院の古文書（椰子の葉に綴られたもの）の保存プロジェクトなどに携わり、日本経済新聞社の日経アジア賞を受賞しています。

## プロジェクト の 報 告

### 出版プロジェクト

#### ●絵本

『人魚がくれたさくら貝』

原作：長崎源之助

絵：山中冬児

訳：ドアンドゥアン・ブンヤヴォン

支援：国際交流基金

沖電気工業株式会社

原作の出版元：偕成社

九州の漁村を舞台に、地元の少年と都

会から来た少女の心温まる交流を描いた児童文学の名作がラオス語に翻訳されました。



### 読書推進プロジェクト

#### ●学校図書室開設

今年も10校で、学校図書室（HakArn）を開設することができました。（HA数字は、学校図書室の愛称「ハクアン」の通し番号。《》内寄付者名は敬称略）

HA136 サティット小学校・HA137 サティット中学校（サワンナケート県カンタブリー郡）／HA138 カンカイ中学校・HA139 ナムコ小学校（シェンクワン県ペーク郡）／HA143 パックギヤップ高校・HA144 エカパープ幼稚園（ボリカムサイ県パクサン郡）計6校《ベルマーク教育助成財団》  
HA140 チョムトーン小学校（シェンクワン県カム郡）／HA141 ポンサイサワン小学校（ルアンナムター県ルアンナムター郡）計2校《三井住友銀行ボランティア基金》  
HA142 パーンコーン小学校（ルアンナムター県ルアンナムター郡）《鈴木雅子》／HA145 ハーンシン小学校（ボリカムサイ県パクサン郡）《L-JATS (Lao-Japan Airport Terminal Services)》

日本からの支援をはじめとして、たくさんの人々の協力で出来上がる学校図書室。子どもの、大人の、みんなの世界を広げることを願って設置された図書室は、オープンできれば終わりというわけではありません。図書室が活動を続けていくるよう、図書の補充や図書館担当教員のトレーニングなど、継続的なフォローアップをしていく必要があります。



HA140 チョムトーン小学校

# 4月はラオスのお正月 ラオスの若者の新年の祝い方

かつて私が働いていたラオスの日本語学校の授業で、こんな質問をしました。

「ラオスを旅行するなら何月が一番いいですか？」生徒達はみんな一様に「4月です！！」と答えます。「どうしてですか？」と私。「4月は1年で一番暑いですが、ラオスのお正月がありますから！！」と生徒。ピーマイの話題になると社会人の生徒も若い生徒も途端に目が輝き、話に花がさきます。

いよいよピーマイが近づいてきました。若者向けの洋服屋さんには、とんでもなく派手なアロハシャツが並びます。水掛け戦闘服のようです。どうしても私には素敵に見えないのですが、みんな気合いを入れて選びます。

ピーマイの休みは3日間のはずなのに、ピーマイの1週間は授業になりません。みんなパーティーで大忙しで誰も授業に来なくなってしまうのです。

私もいろいろな家のパーティーに招待してもらいました。音楽が大音量でかけられ、ランボン（ラオスの盆踊り）を踊り、ラープやカオブンなどのご馳走が並び、水をかけあい、そして、例外なく、大量にお酒を飲まれます。特につらいのは、やはりラオラオ（ラオスの焼酎）の一気飲みです。そして、酔っぱらった隙をみて、口紅や、ベビーパウダー、どろなどを顔にぬりたくってきます。背中から直接氷水を注ぎ入れられたりもします。準備に追われ、寝てない人もたくさんいるのに、みんな大量のお酒を飲み、おおはしゃぎです。何をしても無礼講です。

パーティーから帰る頃には、酔いでふらふら、洋服はびしょびしょ、顔はヘンテコで散々です。

しかし、まだ試練は終わった訳ではありません。帰り道も大変です。バイクを運転しているとわーっと子どもたちが前に出てくるので、びっくりしてバイクを急停止すると、すかさず大量の水やベビーパウダーをかけられます。走行中に急に横から掛けられる場合もあります。

そんな「水かけられポイント」が道ばたに無数に設けられています。中には、警官に扮した人に庭まで誘導され、庭で待ちかまえていた人たちに散々水を掛けられる、なんていうポイントも存在します。道ばただけではありません。後ろから近づいてくるトラックやワゴン車には水がたっぷり入ったドラム缶が搭載され、それに乗った大声で歌い、踊る集団が容赦なく水を掛けけてきます。

急に水をかけられて、転倒しているバイクも何台も見ました。今思えば、よく私が無事にピーマイを乗り越えたものだ、と自分の運の良さに感動したりします。

そんなこんなで怒濤のピーマイ週間明けの授業では、うってかわって、私も生徒もぐったり疲れきっています。

それでもなぜだか、また来年のピーマイを心待ちにしてしまうのが不思議です。

今は日本でラオス人たちのピーマイの時の満面の笑顔を思い出しながらも、みんなが無傷でピーマイを乗り切れますようにと思わず祈ってしまうのでした。

(黒古真由)



## サバイディー・ピーマイ 06 ～はじめませんか？あなたの一步～

「サバイディー・ピーマイ」はラオス語で「新年おめでとう」の意味です。4月のラオス正月にちなみ、ラオス文化と「ラオスのこども」の活動とを紹介するイベントを開催します。これまでとは趣を大きく変え、今年は、ご参加くださる皆さんに活動を体験していただけるように企画を工夫しました。

画像や映像で紹介する「ラオスのこども」の活動、ラオス語絵本・紙芝居の読み聞かせ、留学生によるラオス語講座、ラオス舞踊体験、手工芸品（伝統染織の布製品、スカーフ、ポーチ、等々）の販売など、様々なコーナーをつくります。

もちろん、本格ラオス料理もお楽しみいただけます。お祝いには欠かせないラープ、ルアンパバーン県が本場のクレソンのサラダ、川のり、ラオスの煮物のオッ、おつまみに最適の干し肉、ラオスの主食のカオニアオ（おこわ）、ラオスのデザート等々を予定しています。

ラオス魅力いっぱいのイベントにぜひご参加ください。

日 時：4月22日（土）15:00～18:00

（受付開始 14:30）

会 場：ライフコミュニティ西馬込2階

（東京都大田区西馬込2-20-1）

交 通：都営浅草線「西馬込」駅南口より徒歩1分

参加費：一般 3,000円、会員 2,000円、小中学生 1,000円

（収益は ラオスでの教育支援活動に役立てさせていただきます）

定 員：100人（お申し込み先着順）

主 催：特定非営利活動法人ラオスのこども

協 賛：キッコーマン株式会社

後 援：ラオス大使館

（Myカップ、Myハシ、ご持参大歓迎！）

参加ご希望の方は、お名前、ご住所、ご連絡先、参加人数をご連絡の上、お早めにお申し込みください。

お問い合わせ・お申し込み：ラオスのこども事務局

電話・FAX: 03-3755-1603 メール: deknoylao@yahoo.co.jp

## JICA フェーズII の動き 地域へ、地方へ、有償へ

2005年12月中旬より、JICAの草の根技術協力事業「ラオスにおける読書推進運動の自主的運営のための拠点構築事業」がスタートしました。これは、12月1日まで実施したJICAとの開発パートナー事業「ラオスにおける読書推進運動支援事業」の発展形で、当会では開発パートナー事業を読書推進運動フェーズI、草の根技術協力事業を読書推進運動フェーズIIと位置づけています。34号と35号に続いて今回は活動内容をもう少し詳しくお知らせします。

### フェーズIIまでの道のり

読書推進運動は1990年に国立図書館のリーダーシップのもとに始まり、当会は1992年よりこの運動に協力し、図書箱や図書袋を配付して、配付時には図書担当教員を対象に読書推進セミナーを実施してきました。フェーズIはこの集大成ともいべき事業で、図書箱・図書袋の配付に一つの区切りをつけることができ、読書推進運動への支援は新たな段階に入っていました。それは、①学校自身で図書を増やし、図書室を育てていくこと、②図書を活用する人材を確保し、多様化していくことです。フェーズIIは、これらの活動を可能にするシステムを関係機関の中に構築し、円滑に機能させることによって、読書推進運動がラオス人関係者の手で自主的に運営され、発展していくことを目ざしています。

### フェーズIIでの新たな取り組み

フェーズIIでは、図書の出版、学校への配付と読書推進セミナーを継続すると同時に、次の3つのキーワードに基づいて新たな試みに取り組んでいます。

#### 1) 学校から地域へ

読書推進活動を学校全体の活動としていくため、セミナーでは校長、先生全員、高学年の子どもたちで図書委員会を設置することを呼びかけて多様な人

材の参加を促し、図書の自力調達の方法を伝えていきます。また読書推進ニュースレターを定期的に発行して学校や地域に配布します。ニュースレターでは、積極的な学校の事例や新刊図書の内容などを紹介し、地域の人々が学校図書室を支え、広げていくための啓発のツールとして活用します。

#### 2) 中央から地方へ

フェーズIを通して育ってきた県教育局や郡の教育指導官をこの運動を実質的に担う人材として活用し、読書推進運動を中央主導型から地方中心にシフトしていきます。

#### 3) 無償から有償へ

学校自身で図書を調達し、図書を「無料で受け取るもの」から、「対価を支払って得るもの」へと発想を転換するための布石を打っていきます。

2) 3) の活動の中核的な役割を担うのは、フェーズIIの実施地域、ヴィエンチャン県、チャンパーサック県、セコン県、ボーケオ県の4地域の県教育局です。これらの県の読書推進調整員を活用して、教育局の業務に読書推進センターとしての機能を追加します。読書推進センターでは、当会から送った図書をストックとして備え、学校に対して次の方法で図書の交換・寄贈や販売を行います。

- ①図書の貸出カードの借用者欄が名前で満たされたら、新しい本1冊を寄贈する。
- ②図書が多くの子どもたちに読まれてボロボロになつたら、新しい本1冊と交換し、さらに1冊を寄贈する。
- ③図書を特別割引価格で販売する。

売上金は読書推進センターで管理し、新たな図書の購入、または地域内の教育環境向上という目的に限定して活用されます。ヴィエンチャン県ではすでに読書推進センターの準備を進めており、ここをモデル地域として、他地域に水平展開していく予定です。

#### リワード（報酬）からトレード（取引）へ

図書が市場で流通していないラオスで、図書を販売することは極めて難しいと言わざるをえません。このため、対価と引き換えに図書を得る活動を2つの段階に分けました。第1段階は①と②を指し、先生の働きかけにより子どもたちが本を読むようになったことへの対価、すなわち報酬としてのリワードです。第2段階は、本と同等の貨幣価値、または米など流通価値のある物との交換、すなわち商取引の対価としてのトレードです。リワードからトレードへの移行を加速させるためには、お金を払ってでも買いたいと思う、質のよい本を出版することが重要な要素となるでしょう。

今後とも皆様のご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。  
(近藤知子)



# 先生という職業はエンターテイナーなのだとつくづく思った 読書推進セミナー同行記

読書推進セミナーとは、学校の先生方を対象に、図書室の運営と、子どもたちに本の楽しさを伝える様々な活動について行う研修です。2月に行われた読書推進セミナーに東京事務所の猿田が同行しました。

## 今回のセミナーは3日間

ヴィエンチャン県ビヤンカム郡にある研修施設のついた宿泊施設で行われました。参加者は、45校の先生（各学校1名ずつ）と教育指導官5名。講師陣は、国立図書館の職員、県の教員養成校の教員、当会のアドバイザーとスタッフです。各学校に配付したのは、図書128タイトル188冊と紙芝居3タイトルでした。

セミナー1日目は、図書室の意義、図書の登録の仕方、図書の貸出方法、図書室の運営方法についての講義と実習が行われました。188冊もの本の図書カードづくりは気が遠くなりそうな作業ですが、夜の部もセミナーの時間となっており、先生たちは、一生懸命、作業を行っていました。

読書推進運動では、子どもたちが本を読む環境づくりが目的の1つです。歌や踊りが重要な役割を果たしています。図書室や読書の時間に歌や踊りを取り入れることで、子どもたちが学校に来るのが楽しくなる環境をつくっていきます。セミナーでも、子どもたちと楽しむことができる歌や踊りがいくつも紹介されます。

2日目は、本の読み聞かせ、紙芝居、本の紹介の仕方、「語り」についての講義と実演練習が行われました。読み聞かせをする際の本の持ち方から子どもたちへの問い合わせ方などが紹介されました。読み聞かせは初めてという先生たちにとっては少し難しそうでした。一方、紙芝居は、本より持ちやすく、1ページの内容が短いため、初めての先生たちにとっても実演しやすいようでした。「語り」の実演では、何役もの登場人物を演じ、ジェスチャーを交えながら、物語を話していました。先生という職業はエンターテイナーなのだとつくづく感じました。

最終日は、小学校で、子どもたちを前にしての実習です。今回は、本の紹介、紙芝居の実演、図書の貸出をします。5人ずつのグループに分かれ、1グループで1クラスを担当します。各グループでは、事前に、誰が何を担当するかを決め、セミナー中に習った歌や踊りも、どの曲をどの部分で入れるかななども決めて、練習をしていました。



(イラスト：勝占紀子／  
ボランティア)

先生たちはセミナー中よりも、子どもたちの前でのびのびとして

さて、いよいよセミナー最終日です。子どもたちがお昼を食べに家に帰ってしまう前に実習を行うため、午前中から小学校へ行きました。実習を行ったのは3～5年生のクラスです。

子どもたちは本を手に取る前に手を洗います。水は、校庭にある井戸からバケツで汲んできていました。先生たちが本を並べると、子どもたちは、わあーっと駆け寄り、1人1冊ずつ好きな本を手にとって席につき、読み始めました。厚めの本を一生懸命読んでいる子、絵だけ見てただぱらぱらめくっている子、次々に別な本を手にとって読んでいる子、いろんな子どもがいました。ラオスの子どもたちも、本に書かれている文章を一字一句、声に出しながら、読んでいました。

実習の流れはグループによって様々でしたが、先生が本業なので授業は慣れたもの。子どもたちへの問い合わせや本の紹介、紙芝居の実演など、セミナー会場で行ったときより、リラックスして、のびのびしているように見えました。

こうして3日間のセミナーは終了しました。先生たちは、188冊ものの本が入った重い箱をバイクに乗せて、学校まで帰って行きました。

先生たちが今回のセミナーに参加し学んだこと、学校に配られた図書が、先生や子どもたちにどのような変化を与え、学校がどのように変わっていくのか、これから見ていきたいと思います。

(猿田由貴江)

(上) セミナー開会式  
(下) 図書カードづくり



# 国内の活動

2005年11月～2006年2月

## イベント

ご来場、ご参加、ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

### ●OTAふれあいフェスタ

11/5～6 平和島競艇場（東京都）  
主催：OTAふれあいフェスタ実行委員会、  
大田区

毎年、約30万人が来場する地元・大田区の地域イベントで、当会は毎年ボランティア主体で参加しています。今年は、活動紹介のパネル展示、ラオスコーヒー・レモングラスティーの販売、バザーを行いました。このイベントは家族連れのお客さんが多いため、ぬいぐるみや絵本がよく売れました。コーヒーも好評でした。



### ●いのり題目の日

#### 「NGO展示・クラフトショップ」

11/29 妙法寺（東京都）  
主催：日蓮宗東京都西部宗務所

世界の平和をいのるというテーマにあわせ、NGO 6団体の手工芸品を販売するコーナーが設けられ、当会もラオスの布製品、ポーチやバッグなどを販売しました。また、主催者を通して、ご来場者の方々からのテレフォンカードや商品券などの寄付もいただきました。

### ●ワールドカルチャーフェスティバル2006

1/20 キッコーマンKCCホール（東京都）  
共催：アサヒビール株式会社、  
キッコーマン株式会社

各国の料理や文化の紹介を通して、楽しみながら、途上国やNGO・NPOの国際協力活動などに関心をもっていただこうことを目的として開催されているイベントです。今年は、当会を含め、NGO 4団体が参加しました。各NGOが自慢のエスニック料理をつくり、参加者に振る舞います。今年、当会は、ニンジンサラダ、ココナッツゼリーとラオスコーヒーをつくりました。手工芸品の販売や活動紹介も行いました。参加費をご寄付をしていただきました。



## チャリティ・フェア

### ●日本経団連

12/3 1%クラブ チャリティ・フェスティバル  
国際的に活躍するヴァイオリニスト・天満敦子さんのコンサート会場の外にNGO・NPO活動紹介のブースが設けられ、当会は、ラオス語絵本の展示と手工芸品の販売しました。また、コンサートにご来場された方々に活動紹介も行いました。コンサートの収益金によるご寄付をいただきました。



### ●東京海上日動火災保険株式会社

12/14～15 チャリティブックフェア  
& NGO・NPO フェア  
年末恒例のフェア会場内には、NGO・NPOの販売コーナーが設けられ、8団体が出店しました。当会はラオスの手工芸品の販売と活動紹介パネル展示を行いました。フェア売上によるご寄付をいただきました。

## ラオス語絵本プロジェクト

### ●富士ゼロックス株式会社

11/26 ラオスのこども活動紹介と絵本の翻訳貼り

学生時代にラオスに関わっていた社員の方が、社員の皆さんに呼びかけてくださいり、このイベントは実現しました。遠くから参加してくださった方もいらっしゃいました。前半では、ラオスについてと当会の活動紹介をさせていただき、後半に社員の皆さんと翻訳シート貼りを行いました。100冊もの絵本をラオスにお送り下さいました。

いつもご支援下さっている端数俱楽部のメンバーの方や社員の方と直接いろいろお話ができた、とても楽しいイベントとなりました。



# もっと力をください！ ともに活動を！ 会員制度が新しくなります

前号の通信でもお知らせしましたが、定款変更が東京都の認証を得て、会の新しい年度が始まる7月から、会員制度が変わります。この目的は、活動をもっと強化してゆくために、組織化をより進めようということに尽きます。

法人化して3年。中期計画の確実な実行（現地プロジェクトの展開）、組織運営の強化、東京事務所体制の強化、ラオス事務所の自立化への準備などの面で、組織運営は少しずつですが着実に改善してきています。しかし、NGOにとっての生命線である、会員数、ご寄付の増加、さらに収入構造の改善は、進んでいません。

この数年、開発パートナーや草の根技術協力によるJICAとの共同プロジェクトを展開することで、年間運営費は大きく増加しています。これは、政府機関とプロジェクトを進める能力が私たちの団体にも備わっていると評価されているという点で、組織の発展と見ることができます。しかし、NGOの長期的な経営を考えると、特定の補助金に頼ることは、安定度に欠け、好ましいことではありません。

また、NGO活動は社会的な運動体であると考えると、私たちの活動に協賛してくれる個人、団体が増え、「子どもが自らの力を伸ばす権利、人生を主体的に選択する権利を全うできるよう、教育の普及に協力することで、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです」という、私たちの活動の理念が、広まってゆくことが極めて大切です。

私たちの活動に賛同して下さる方、ご協力して下さる方を増やしていきたいと考えております。

みなさん、ぜひ、会員になって私たちの活動を支えてください。そして、ラオスの子どもたちが広い夢と出逢えるよう、教育に触れる機会を増やしてゆく活動を、ともにすすめましょう。入会をお待ちしております。

**活動会員**：年会費 学生3000円／年度 一般5000円／年度  
理念を共有し、積極的、継続的に活動及び運営を支えていこうという人。運営に関する一種の責任を持つ。会員登録は1年間（7月～6月）有効。総会での議決権を持つ。

**賛助会員**：年会費 一口5000円／年度 以上  
資金支援を基本に、会の活動を継続的に応援する人。会員登録は1年間（7月～6月）有効。総会に参加し、意見を述べることはできるが、議決権はない。

**寄付者**：会員登録をしない、一般寄付の方。

**ボランティア**：理念を共有し、積極的、継続的に行動を通して活動を支えていこうという個人。

当会では、一般ご寄付、指定募金へのご寄付、そして、ともに行動で活動を担ってくださるボランティアも募集しております。何かしたいと思っておられる方、ぜひ当会の活動にご協力ください。

\*入会ご希望の方は、同封しました会員申込書に必要事項をご記入の上、お申し込みください。

\*会費・ご寄付は、活動のために大切に使わせていただきます。

## 2005年度指定募金 募集期間 第二期：2006年1月～6月（2007年度実施分） 目標にまだまだ達していません。ご協力をよろしくお願ひいたします！

◆もっともっと絵本募金◆・・・一口1500円  
本の出版や学校図書室への図書セットの配付など、子どもたちにもっとたくさんの本を届け、読書活動の継続を支えます。例えば、10口で図書セット1校分、5口でミニ図書セット1校分に相当します。（100口以上で絵本の出版を支援することもできますので、ご相談ください。）

募集目標 500口 2月末時点の募金状況 219口

◆子どもの未来基金◆・・・一口4000円

子どもたちが様々な危険から離れ、安心して過ごせる居場所、図書室を軸に、お絵かき、工作、音楽、踊りなど学校では行われていない表現活動を通じて生きる力を身につける場所である「子ども文化センター」や「子ども教育開発センター」を支えます。例えば12口で子どものための講座1つを1年間支えることができます。（100口以上でお名前のプレートを設置することもできますので、

ご相談ください。）将来を担う子どもたちの活動を応援してください！

募集目標 300口 2月末時点の募金状況 38口

以下の指定募金はこれまで通りです。

◆本のある学校募金◆・・・一口18万円

小中高校の空き教室を整備して、学校図書室を開設します。一口で一校を開設。お名前のボードを設置し、写真入りの開設報告書をお送りします。

◆スタッフサポート募金◆・・・一口5000円

全てのプロジェクトをより効果的に、より安定的に実施するために活動している「ヴィエンチャン事務所」と「東京事務所」の運営を支えてください。

郵便振替 00140-6-462494 「ラオスの子ども」

# 事務局より

## <ラオス事務所の動き>

### 11月

- 11/1-3 ポリカムサイ出張 (HA開設)
- 11/7-12 サワンナケート出張 (HA開設)
- 11/10-11 TTSフォローアップ
- 11/12 CEC講師ミーティング
- 11/14 開発パートナー事業機材引渡式、スタッフミーティング
- 11/15 出版委員会
- 11/25 JOCV40周年記念公式式典出席
- 11/27 JOCV40周年記念イベント参加
- 11/29-12/21 赤井一時帰国

### 12月

- 12/17-18 スタッフ研修
- 12/26 ヴィエンチャン県セミナー会場視察
- 12/27 スタッフミーティング

### 1月

- 1/5 スタッフミーティング
- 1/14 シーサタナーク CCC訪問
- 1/19 JICA定例ミーティング (赤井)
- 1/26 図書館セミナーに参加
- 1/28 シーサタナーク CCC訪問
- 1/30 JICA草の根調査団の訪問受入

### 2月

- 2/3-4 子どもブックフェスティバル
- 2/9, 12 学習院女子大学スタディツアーリー受入
- 2/13-14 読書環境調査 (ヴィエンチャン県)
- 2/15-17 読書推進セミナー (ヴィエンチャン県)
- 2/21 JICA定例ミーティング

※HA=学校図書室 (ハックアーン) TTC/TTS=教員養成校  
CCC=子ども文化センター CEC=子ども教育開発センター

## <東京事務所の動き>

### 11月

- 11/5-6 OTAふれあいフェスタに参加
- 11/12-18 ラオス出張 (野口)
- 11/26 理事会
- 11/26 富士ゼロックス株式会社にてラオス語絵本翻訳貼り (猿田)
- 11/29 いのり題目の日「NGO展示・クラフトショップ」に出店 (猿田)

### 12月

- 12/3 日本経団連1%クラブ チャリティ・フェスティバルに出店 (森・近藤・猿田)
- 12/7-19 FASID「参加型プロジェクト形成」  
国内・海外研修に参加 (猿田)
- 12/11 理事会、運営会議
- 12/11 日本語でスピーチ発表会に出店
- 12/14-15 東京海上日動チャリティブックフェア&NPO・NGOフェアに出店 (赤井・小川・近藤)

### 1月

- 1/8 理事会、運営会議
- 1/20 ワールドカルチャーフェスティバルに参加 (黒吉・猿田)

### 2月

- 2/4 活動説明会
- 2/10-23 ラオス出張 (猿田)
- 2/12 理事会、運営会議

(イラスト: 勝占紀子 /  
ボランティア)



## ----- NGO ネットワーク -----

### JNNE (教育協力NGOネットワーク) による、NGOのライフスキル教育活動の研究

「ライフスキル教育」ということばがあります。生きていくために必要なことを身につける教育という意味です。様々な国で教育に関わる協力活動をしているNGOの集まりであるJNNEは、2005年、それぞれの活動について経験交流をしながら、「子どもが、よりよく生きていくために必要なことを身につける教育」という視点から、自らの活動を見つめ直しました。

ライフスキル教育の目標を、JNNEでは「人々が日常生活で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力を育てる」とまとめました。そこで、身につける技能あるいは態度とは、意思決定、問題解決の能力であったり、創造的思考、批判的思考、対人能力 (コミュニケーション能力)、ストレスへの対処などです。

また、身につけるべき知識は、その子ども (大人も) の生活環境によります。紛争後の地域であれば地雷の危険を回避できる知識は必須です。このほか、HIV/AIDS、保健衛生など、

地域、対象者に応じて優先すべき知識は変わります。

例えば、日本の子どもたちが対象であれば、対人能力 (コミュニケーション能力) を身につけたり、非行の回避、例えば友だちから喫煙や万引きの誘いを断るスキルを身につけるなどがあるかもしれません。日本の場合は、地域の教育力と子どもの異年齢集団がなくなったことによって、ライフスキル教育の必要性が高まったといえます。

#### ライフスキル教育のステージ、 CCC/CEC

「ラオスの子ども」の活動で、ライフスキル教育を実践するのに適した場として、各地のCCC (子ども文化センター) とヴィエンチャンのCEC (子ども教育開発センター) が挙げられます。すでに、子どもたちは、例えば絵本のお話を芝居にするなど、様々な活動を通して、子ども同士で、ライフスキル教育を実践してきているといえます。また、今後、スポーツを導入していく予定で、チームプレーもま

## JVC、地球の木の人々とのスタディーツアーに参加して

タケクに3泊、ヴィエンチャン→ルアンパバーン→ヴィエンチャンに各々1泊のスタディーツアー。メンバーはJVCから現地スタッフを含めて8名、地球の木から3名、そしてラオスのことのボランティア、森信さんと仁茂田さんの計13名が参加しました。

タケクではカムアン県の中程にある3か所の村を訪問しました。

最初の村では村の人々と交流後、日本式稻作技術の普及の様子を見学し、2、3番目の村では村人との交流後、森の中を散歩し、果樹苗配布の状況や森林保全の様子を見学、その後村（ムアンカイ村）の小学校を訪問し、生徒たちとケンダマをしたり折り紙をして遊びました。

学校の規模は先生が2人、生徒数が50人ほどで5教室あり、ここに先生に「ラオスのこと」の図書箱（袋）について尋ねたところぜひ援助してほしいと言われました。

村の訪問では村人の物の考え方や生活の様子が分かり大変面白かったです。JVCのツアーならではと感じました。もっとも村の訪問には政府の役人が同行したので村人の本音が聞けたか疑問ですが。

（仁茂田道彦／ボランティア）

タケクという町で3日間、JVCの現地スタッフさんのガイドで、タケク周辺の小さな村3村を回りました。村人の住んでいるところは、草で編んだ壁、木でできた高床の建物で下には犬や豚が。。立派な町の景色と違いに驚きました。村の人とのコミュニケーションや、灌溉で可能になった、広大な緑の水田、女性の仕事機織、果樹園などを見、森の散歩をし、そして歓迎のバーシーともてなし料理を体験しました。



ムアンカイ村の小学校の子どもたち

子ども文化センター（CCC）を2か所見学しました。古都ルアンパバーンでは子どもたちの白熱した踊り遊びに参加させてもらい一緒に遊び、ヴィエンチャンでは、ラオスのことのスタッフの猿田さんと赤井さんにCCCをガイドしていただき、ラオス人のボランティアにラオス語の「ももたろう」を語ってもらい、ラオス人にも日本の物語が語られているということを肌で感じなんともいえない感動を体験しました。NGOのメンバーだからこそ味わえた充実した心に残る旅でした！

（森信紗代／ボランティア）

たライフスキルを高める効果をもたらすといえます。

身につけるべき知識としては、子どもたちの間で広がりつつあるドラッグについてが、優先順位が高いといえるでしょう。

子どもたちがライフスキルを高めていく上での課題は、CCC/CECの様々なプログラム、例えば、音楽、伝統舞踊、图画工作について、講師がライフスキル教育の視点を持って子どもたちに接するということです。CCC/CECの伝統舞踊教室は、ダンサー養成が目的ではなく、子どもの豊かな成長のためのものです。こうしたCCC/CECの理念を、CCC/CECに関わるすべてのスタッフが認識し、どのように子どもに接していくべきか、技術を身につけていくことが必要といえます。

### 学生によるライフスキル教育の実践

2005年8月、学習院女子大学の学生ボランティアがCECで子どもたちにリコーダー講座を開きました（前号で紹介）。

映画タイタニックのテーマ曲という難曲への挑戦を子どもが持ちかけ、指導する学生が内心うろたえたにもかかわらず、子どもたちは、上手な子が不慣れな子に教えるなどして、初めて楽器に触れた子も10日ほどの練習で、みごとに演奏をしたのでした。学生たちは、教育の専門家でも音楽指導者でもありませんでしたが、自分が教わる立場だったらという意識を強く持って講座を周到に用意し、さらにそれを上回って、子どもたちが楽器演奏を楽しんだのでした。これは、学生たちが無意識のうちに実践したライフスキル教育だったといえます。

現在、ラオスの子どもたちを取り巻く環境は急速に変化を遂げています。こうした中でたくましく生きていけるよう、ライフスキルの視点を持ってCCC/CECの活動を進めていきたいと思います。

（森透）